

障害者歯科学

責任者・コーディネーター	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野） 小林 琢也 教授				
担当講座（分野）	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）				
対象学年	4	区分・時間数	講義/演習	実習	
期間	後期		前期	—	—
			後期	28.0時間	—

学修方針（講義概要等）

ノーマライゼーションや障害全般に対する考え方を理解し、障害者の対応法、全身麻酔下での治療を含めた歯科治療法について学修する。

教育成果（アウトカム）

講義：障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を理解し、対応法について系統的に講義を行うことにより、障害者への治療を実践できる医療プロフェッショナルの基盤を形成することができる。また、障害者歯科医療への責務に対する考え方を深めることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3、4、5、6）

到達目標（SBOs）

1. 障害者歯科学の目的と障害者歯科医療の特徴を説明できる。
2. 障害の概念や種類を記述できる。
3. 障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業平均40分程度を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。授業においてレポートが課された場合は、提出後、評価の上返却する。授業後は、学修した内容について教科書や配布資料を使用した事後学修を平均40分程度を要する。

（事前学修：平均40分を要する 事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/10 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	障害者歯科学概論 障害者および障害者と歯科医療の関わりを理解する。	1. 障害者の歴史、定義および実態を説明できる。 2. 障害者の医療、障害者歯科学の定義、困難性、対象患者について説明できる。 [GE-05、IP-03] 事前学修：教科書p2～p37、58を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	9/17 (木)	4	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	知的能力障害 I 知的能力障害ごとの特徴、歯科治療法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 知的能力障害 2. Down症候群などの先天異常 [D-5-8-1, 2, 3, 4, E-5-7] 事前学修：教科書p40～p47とp170～p172を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	9/24 (木)	4	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	知的能力障害 II 知的能力障害ごとの特徴、歯科治療法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 自閉スペクトラム症 2. 学習障害 [D-5-8-1, 2, 3, 4, E-5-7] 事前学修：教科書p48～p57を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/1 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	神経・運動障害 I 運動障害ごとの特徴、歯科治療と予防法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 脳性麻痺 2. てんかん [D-5-8-1, 2, 3, 4, E-5-7] 事前学修：教科書p58～p67とp93～p105を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
演習	10/8 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	前半復習試験	

講義	10/15 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	神経・運動障害Ⅱ 運動障害ごとの特徴、 歯科治療と予防法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 筋ジストロフィー 2. 脊髄損傷 3. 関節リウマチ [D-5-8-1, 2, 3, 4, E-5-7] 事前学修：教科書p67～p78を読み、 疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/22 (木)	4	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	障害者歯科の困難性の克服Ⅰ 障害者歯科での困難性 に対応する対処法を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 行動管理 2. 医学的管理 [D-5-8-1, 2, 3, 4] 事前学習：教科書p208～p239読み、 疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/22 (木)	5	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	障害者歯科の困難性の克服Ⅱ 障害者歯科での困難性 に対応する対処法を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 歯科治療における工夫・配慮 2. 口腔衛生管理 [D-5-8-1, 2, 3, 4, E-2-1-2-3, E-5-7] 事前学修：教科書p239～p244とp277～ p315を読み、疑問点を抽出しておく。 所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/29 (木)	4	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	障害者歯科学 中間試験	
講義	11/12 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	障害者の麻酔 障害者に多用される日 帰り麻酔とその他の全身麻酔の 違いを理解する。	1. 障害者の麻酔法の特徴を説明できる。 2. 障害者歯科における全身麻酔の 役割を説明できる。 [D-1-2-3-1, 2, 3] 事前学修：臨床歯科麻酔学p177～ p185を読み、疑問点を抽出しておく。 所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/19 (木)	4	菊池和子非常勤講師	症候群Ⅰ 知的能力障害、咬合異常、 全身疾患を有する 主な症候群を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 常染色体異常 2. 性染色体異常 3. 皮膚、神経の異常 [D-3-1-1-1] 事前学修：教科書p168～p200を 読み、疑問点を抽出しておく。所要時間 40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充 を行う。所要時間40分程度。

講義	11/19 (木)	5	菊池和子非常勤講師	症候群Ⅱ 知的能力障害、咬合異常、全身疾患を有する主な症候群を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 小下顎症 2. 皮膚、毛髪、爪の異常 3. 骨格の異常 [D-3-1-1-1] 事前学修：教科書p168～p200を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/26 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	発達期の摂食嚥下障害 摂食嚥下障害の特徴、歯科的特徴と訓練法を理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 摂食嚥下の発達を説明できる。 2. 摂食嚥下障害の特徴を説明できる。 3. 摂食嚥下障害の口腔内の特徴と歯科的治療法、予防法を説明できる。 4. 摂食嚥下障害での訓練法を説明できる。 [A-3-2-10、D-5-8-5] 事前学修：教科書p127～p146を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	12/10 (木)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	国家試験重要項目の実力養成 障害歯科の重要事項について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 知的能力障害 2. Down症候群などの先天異常 3. 脳性麻痺 4. 症候群 [D-5-8-1, 2, 3, 4, D-3-1-1-1, E-5-7] 事前学習：障害者歯科領域の国家試験問題に目を通し、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版	日本障害者歯科学会編集	医歯薬出版	2017年
参	臨床歯科麻酔学 第5版	丹羽 均ほか編集	永末書店	2019年

成績評価方法・基準・配点割合等

総括的評価：進級試験（記述式）80%、前半復習試験（記述式）5%、中間試験（記述式）15%
 形成的評価：講義ごとの振り返りシートで理解度を確認し、フィードバックする。

到達目標	DP	前半復習試験	中間試験	定期試験	その他	合計
1	1、4、5	1	5	25		31
2	3、4	2	5	25		32
3	4	2	5	30		37
合計		5	15	80		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

- 【フィードバック】講義後に試験を行い、結果は次の講義中にフィードバックする。
- 【アクティブラーニング】講義日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
- 【ICT】講義前にWeb Classに資料を提示するので事前学修に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的
ノートパソコン PC-NM550MAB	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション用